

第109号

事業団だより

～わたしからあなたへ… まごころ発信～

社会福祉法人
大分県社会福祉事業団
 大分市大津町2丁目1番41号
 大分県総合社会福祉会館
 TEL (097) 552-1316
 FAX (097) 552-1094
<http://www.oitaswo.jp>

陽春号

自分を表す漢字を一文字で!!



平成28年度新採用職員

特集

P2 - P3 日田はぎの園を訪ねて

P4 - P7 平成27年度実践事例研修会

P8 - P9 平成28年度法人本部事業計画



はぎの園を訪ねて

のご協力のもと移転改築を進めてまいりました。

3月16日に無事に引越しを終えました。

新たに石井地区でスタートをきります。

日田はぎの園の特集です。



首藤忍 理事長

今回の日田はぎの園の移転改築完了は、事業団において施設整備を進めてきた、その「集大成」であり、完全民営化のシンボルだと認識しています。

これまでの三人部屋からほぼ全室を個室にすることにより、十分な生活空間の確保とともに、ご利用者のプライバシーの確保も図られています。

浴室

庭園も ついてるよ

日田杉のいい香り

談話室コーナー

- 2階建て 延べ床面積 3,848.93㎡
53.60㎡
- 2人部屋 12室 計84人分
 - ⑤食堂の横に多目的室を設置
 - ⑥談話コーナー 4か所
 - ⑦壁面、ベンチ等に木材を活用
-



住所 大分県日田市大字石井字榎鶴789-1

大分県日田

日田市にある大分県日田はぎの園では、多くの
このたび、平成28年2月27日に落成式を行い、
築33年が経過した建物に別れを告げ、
今回は、その大分県



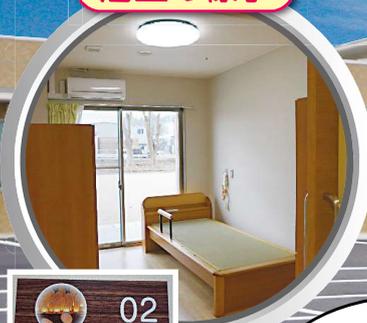
銅城義則 園長

今回、ハード面は充
分なものが完成いたし
ました。
支援員の業務に対す
る意識・対応等、ソフ
ト面の充実にこれまで
以上に力を入れ、ご利
用者の皆様に満足して
いただけるようなサー
ビス提供を行っていま
す。
また、これからも日

田の皆様可愛がって
いただけるよう職員
一同邁進してまいり
ます。
新しく生まれ変わっ
た「大分県日田はぎの
園」に皆様ご期待くだ
さい。



居室の様子



02



入ロプレートは
日田文化の写真を
使ってるんだね

食堂兼多目的室



こんなに広いと
なんでもできるね



大嶋豊和 自治会長への

インタビュー

Q 新しい建物に移ることへの率直な
気持ちを教えてください。

A) 今までのはぎの園とは違い、新しい建物で
生活できるので、とても楽しみです。

Q 新しい建物で一番気に入っているところは？

A) 一人部屋になるのが嬉しいです。

Q 新しい建物での楽しみは？

A) 新しい作業場（陶芸室、陶芸釜）で自分の
作品をつくるのが楽しみです。



施設の構造・ 規模

主体施設 鉄筋
コンクリート造
作業棟 木造平屋 面積
車庫 面積 97.39㎡

施設の特徴

- ①居室 個室 60室
- ②短期入所 5室
- ③各階に浴室設置
- ④歯科診療室設置

委員会報告

去る2月17日、総勢70名余が参加し、法人の1年間の取り組みを振り返る実践事例研修会が行われました。

この実践事例研修会は平成25年度から始まり、今回で3回目となります。

発足の経緯としましては、各委員会の取組み状況の報告や各



転倒事故等防止対策委員会

ご利用者の加齢や身体機能の変化に伴い、転倒による事故報告が増える中で立ち上がった委員会。経緯が深刻なだけにプレッシャーの大きな委員会です。

多職種が協働し、各々の知見から調査や活発な

議論が成された結果は、当広報誌の前号でお知らせしたところですが、

転倒等の事故を単なる事例として共有するのではなく細かく分析したことで、好発年齢や性別を割り出し、具体的な防止対策を作ることができま

した。

骨強度や筋力の増強はよく言われることですが、口腔ケアが転倒事故等防止に役立つことはありません。知られていないのではないのでしょうか。

専門職が各々の力を出し合うことで、転倒のメカニズムを多角的に捉えた結果が表れています。

28年度は、新たにリハビリテーション委員会を立ち上げ、作業療法士と言語聴覚士を中心に専門リハビリテーション支援の定着を図ります。



発表者 糸口学園 疋田 秀俊 支援課長

3つの委員会の中で、最も日常業務に浸透しているのがサービス向上委員会です。

多くの気づきを得て、より質の高いサービスの提供へと結実しつつあります。

定期的に全職員に実施

している行動規範チェックリストの項目の中から、

特に呼称や人権について、

職員を意識レベル向上を

入念に実施の評価

にまでは至りなく



法人内での施設間交流については、受け入れ先施設の評価にまでは至りなく、いという結果となりました。

も大いに期待が募ります。

平成27年度 実践事例研修会

所属での実践事例など成果の報告を通しての情報共有と、職員のパレゼンテーション能力を養成することを目的として始まったものです。

今回は、3つの委員会の取り組みと、法人5大プロジェクトのうちの4つのプロジェクトの進捗状況について各担当者から発表がありました。

回を重ねるごとに工夫が見られるようになり、発表者のパレゼンテーション能力も向上しております。

参加者も入団1年目の職員から所属長までと幅広く、質疑応答においても様々な立場からの質問や意見があり、有意義な会となりました。

誌面の都合上、内容の全ては掲載できませんが、それぞれの発表をまとめましたので紹介いたします。



サービス向上委員会

図り、当法人の基本方針に則った質の高いサービスの提供につながる取り組みが、活発に行われました。

年間を通して実施された各所属部署における15分スピーチでは、発表者の意識や意見、提言から

りました。しかし、他の施設を見学体験することにより、それぞれの糧となりました。

風通しの良い職場環境を獲得することとは、職員が切磋琢磨し合いなが



発表者 日田はぎの園 穴井 靖彦 主幹

危機管理対策委員会



発表者 糸口第二厚生園 財津 智宏 支援係長

や思考の傾向の自分の行動の自分行動の傾向

か。予期予見することの大切さを、危機管理対策委員会は身をもって伝えてくれたのではないでしょう

今年度の成果は何と云うかBCP (Business Continuity Plan) および対応マニュアル(案)ができたことでした。

設備能維持のためのマニュアルづくりに向けて、委員さん達は団結し、大規模災害を想定した防災(参集)訓練や備蓄食材搬出実地訓練と反省会や検討会議を重ねま

を訓練を通して把握し、有事に備えることは、職員として当然のことです。ご利用者が平常心でいられなくなった時、私達が冷静に考え行動することは、ご利用者・職員の生命と安全の確保、事業の継続と早期復旧につながります。

プロジェクト報告

けいせんプラザプロジェクト

目的は、溪泉寮の既存事業のさらなる発展、生活困窮者に対する包括的な支援、無料低額宿泊事業の整備の3点とし、生活困窮者自立支援法・生活保護法・障害者総合支援法に対応する新しいタイプの宿泊型福祉施設を目指すこととしました。

昨年12月1日から事業を開始し、これまで9名の方が利用されました。今後の展望としては、利用率の向上、既存事業の発展、就労支援と強化し、関係機関との連携を更に取ります。

福祉関係三法に柔軟に対応します

I 生活困窮者自立支援法

◇対象者
自立相談支援事業の対象となった方、「自立生活のためのプラン」において宿泊を伴う支援が必要とされた方
※特に、就労準備支援事業と一時的な生活支援事業の対象を想定しています。

◇支援内容
無料低額宿泊所として昼と夜のサービスを提供します。
・昼食やバス（夜間バス、生活相談、緊急時の対応）
・利用料金は1泊3食 2,500円
（内訳：施設利用料 1,250円 食費 1,250円）

朝食：250円
昼食：500円
夕食：500円

II 生活保護法

◇対象者
生活保護受給中の方もしくは生活保護受給見込みの方

◇対象事業
・緊急一時保護事業（路上生活者等、市町村から緊急の依頼による搬入）
・一時的入所事業（在宅の精神障害者の方で、状態が一時的に不安定になった方等）
※これまでも温泉療養で搬入された事案ですが、搬送不足のため十分な対応ができなかった事案があります。

III 障害者総合支援法

◇対象者
障がいのある方で実施主体（市町村）からサービス利用の認定を受けた方

◇対象事業
・施設入居事業（障がいのある方の福祉サービス利用に向けてのお手伝いをします）
・短期入所（短期入所や食事の提供等必要な支援を行います）

上記三法の対象とならない方でも、行政機関や生活困窮者のための支援をされている関係機関等からご相談があれば、導入の余地が大きいと考えます。

社会福祉法人 **大分県社会福祉事業団**

設立 昭和42年10月4日
法人本部 大分市大津町2丁目1-41（大分県総合社会福祉会館3階）
実施事業 指定障害者支援施設 障害者入所施設 介護施設等
〒 860-0811 大分市大津町2丁目1-41

自立相談支援機関
自立生活のためのプラン

① 相談 → ② 委託 → ③ 入所

けいせんプラザ（無料低額宿泊所）

けいせんプラザのスタッフが旅行支援をする場合は別途料金を設定（1,000円/60分、その他30分毎に500円の追加料金）



発表者
大分県溪泉寮
津島 伸一郎 主査（左）
富高 雅史 支援員（右）

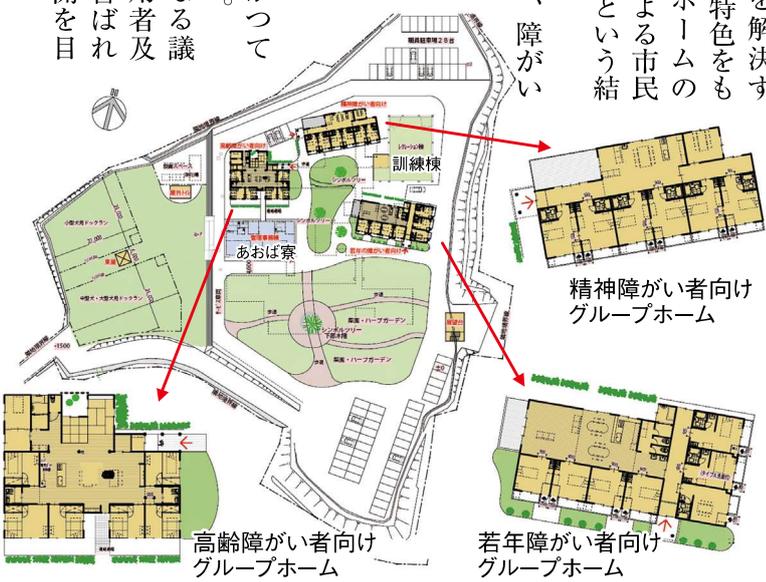
日田はぎの園跡地活用プロジェクト

平成28年3月の移転に伴い、跡地活用についてまずは県西部圏域のニーズ調査を実施しました。その結果、グループホームの不足、若年障がい者及び精神障がい者の生活訓練の場の不足、余暇を過ごせる場所の少ないことと、親なきあと問題等の声が上がりました。

これらの課題を解決すべく、それぞれに特色をもたせたグループホームの整備と、公園化による市民憩いの場の創出、という結論に至りました。

具体的な内容は、障がい特性別グループホーム、ハーブガーデン、ドッグラン、小動物とのふれあい広場等、事業団の歴史の中でも、かつてない取り組みです。

今後は、さらなる議論を深め、ご利用者及び地域の皆様に喜ばれるような事業展開を目指してまいります。



発表者 日田はぎの園
中村 文 支援係長（左）
梶原 みずえ 支援員（右）

平成27年度 実践事例研修会

糸口第二厚生園跡地活用プロジェクト

このプロジェクトにて独自の調査を行った結果、宇佐地区だけでなく県下全体の障害福祉における課題が浮上しました。

調査方法は、まず、糸口地区施設ご利用者の要介護認定シミュレーションの実施及び分析、さらに親の会や関係機関等への聞き取りを行いました。

その結果、①入所施設ご利用者の高齢化②在宅障がい者の高齢化③在宅障がい者の親なきあと問題④入所施設待機の長期化という課題がみえてきました。

これらの課題に対して跡地を活用し、事業団としてのスケールメリットを活かした事業展開として、知的障がいまたは精神障がいのある高齢者を優先とした有料老人ホーム・通所介護事業と、障がい者グループホームの複合施設建設の方向となりました。今後は、具体的な日中活動や施設整備の内容、先進地視察や親なきあと問題の研究・検討等を重ね、平成30年度事業開始を目指しています。



発表者 糸口通勤寮 石山 龍也 管理係長 (左)
糸口第二厚生園 林 雄一郎 書記 (右)



発表者 地域総合支援センター
小深田 誠 主任支援員

新地域総合支援センタープロジェクト

現状課題は、糸口学園内で展開している児童発達支援センター・放課後等デイサービスなどの活動場所が手狭であること、宇佐市における在宅関連事業所が複数箇所に分かれています。

取り組み内容は、新規事業（カフェ・配食）の具体案の作成、平面図・全体敷地計画の検証、先進地視察の3点とし、そのねらいを①市街地における在宅系サービス体制の確立②見

取組み内容は、新規事業（カフェ・配食）の具体案の作成、平面図・全体敷地計画の検証、先進地視察の3点とし、そのねらいを①市街地における在宅系サービス体制の確立②見

現状、工事は着々と進んでおり今年7月1日開所を予定しています。

現在、工事は着々と進んでおり今年7月1日開所を予定しています。

児童から高齢者までの在宅生活におけるサービスの提供③市街地での活動による就労意欲の向上並びに就労の場の拡大④事業所統合による事業の効率化と連携強化、としました。

市 町	サービス	名 称	内 容 等
中津市	放課後等デイサービス	どんぐり3	定員10名
	就労継続支援A型	すまいる工房大福万田店	
宇佐市	就労継続支援A型	すまいる工房大福	定員20名~40名 カフェ等新たな作業を行います
	共同生活援助(グループホーム)	すまいるホーム	定員57名 11住居
	就労移行支援	大福	定員6名~定員10名
	相談支援(一般相談、利用計画作成等)	サポートネットすまいる	
	障害者就業・生活支援センター	サポートネットすまいる	
	居宅介護等(ホームヘルプ)、移動支援	サポートネットすまいる	
	児童発達支援センター	どんぐり	定員10名~定員20名
	保育所等訪問支援	どんぐり	
瀬田	放課後等デイサービス	どんぐり	定員10名~定員20名
	生活介護	大福	定員10名 生産活動を中心とした日課を提供します
瀬田	放課後等デイサービス	どんぐり2	定員10名

めとした関係機関への周知活動を強化する。また、大分県社会福祉協議会が進める「おおいたぐくらしサポート」事業への協力を通して、緊急一時保護や宿泊を伴う就労支援などのニーズに適切に対応する。

(2) 親なきあと問題への取り組み強化

高齢障がい者に対する支援や「親なきあと」への対応は喫緊の課題であり、どのような課題を抱えているか、それに対して何を準備しなければならないかを明確にするため、プロジェクトによる研究や先進地視察を進め、具体的な策を講じていく。また、高齢障がい者に特化したグループホームを日田はぎの園跡地に建設し、終の棲家として提案する。

糸口第二厚生園跡地活用プロジェクトを「親なき

きあと問題研究プロジェクト」として再度立ち上げ、高齢化した知的障がい者の受け皿としての生活施設を研究するとともに、親が不安に感じている財産管理や身上監護等の諸問題についての相談支援能力の向上を図る。

(3) 多様なニーズに対応するための事業展開

宇佐地域では地域総合支援センター『サポートネットすまいる』を7月に開設し、県北部圏域での障がい児療育及び相談支援機能の充実と就労継続支援A型の強化に取り組む。

・中津市では、ニーズに応え新たに放課後等デイサービスを開始し、充実した設備でより専門的な支援を行う。

・日田はぎの園の跡地では、県西部圏域においてグループホームの不足が顕著なことから、若年障

がい者と精神障がい者並びに高齢障がい者に特化した3棟を整備するとともに、一帯を公園化し市民の憩いの場を創出する。

・九重町において新たに相談支援の拠点を設け、地域ニーズの掘り起こしを行うとともに、玖珠郡におけるグループホームの整備を進める。

・由布市においては、地域の障がい者や親が気軽に情報交換できる場所として「ふれあいサロン」のぞみ」を整備し、併せて福祉ニーズの掘り起こしを行う。

・なおみ園のこどもデイサービスバンビでは、専用施設「バンビハウス」を整備し、支援メニューの拡大と充実を図る。

(4) リハビリテーション機能の強化

近年増加傾向にあるため、27年度に「転倒事故

等防止対策委員会」を立ち上げ、原因分析と対策を検討し、①身体づくり②環境整備③支援力の向上が重要であるとした。28年度は、新たにリハビリテーション委員会を立ち上げ、作業療法士と言語聴覚士を中心に専門リハビリテーション支援の定着を図る。

(5) 女性、障がい者の活躍推進

女性が育児休業をとりやすくするために昨年度は8名の女性職員を定数を超えて配置したが、今年度は9名を配置する。

法人が職員として採用する「障がい者雇用」についても、さらなる雇用者増を図るとともに、職域の拡大と正規職員化に取り組み。就労継続支援A型の定員を拡大し、雇用率7.48%（平成28年1月1日現在）をさらに向上させる。また、

宇佐地区においてカフェ・レストラン（注1）『ナチュラエイト』を開業するなど新たな取り組みを行い、賃金向上を図る。

(6) 研修の充実

地域の困っている人々を支援するのが社会福祉法人の使命であることを自覚し、さまざまな地域貢献活動を行っていく。そのために各事業所において地域のニーズをどうくみ取り、どう具体的に対応していくべきか、先進地の視察や実践している法人リーダーを講師に迎えての勉強会などにより知識を深め、対応能力の向上を図る。

（注1）
「hama+8(ナチュラエイト)」の由来：自然に囲まれた八角形、宇佐八幡の八、末広がり

～『大分県社会福祉事業団 職員互助会会館』完成～

昭和60年4月に発足した職員互助会が、昨年の4月で30周年を迎えました。それに伴い、念願の互助会会館が完成しました。

互助会活動のさらなる充実に向けて、これからはより綿密な話し合いができるようになりました。

職員同士のサークル活動や、この場としても活用したとの話も出ています。

また、いざという時のために防災倉庫も併設しているため、災害時には避難地としても活用します。



住所
宇佐市大字上時枝 1223 番地 5

会議室

青木 繁 職員互助会会長

各施設、事業所でのサービス利用（契約）者の状況 (平成28年1月1日現在)

所属名	サービス利用（契約）者数 (単位:人)																			合計	
	救護施設	施設入所	生活介護	短期入所	自立訓練	宿泊型自立訓練	就労移行支援	就労支援A型	就労支援B型	共同生活援助	児童発達支援	放課後等デイサービス	入居施設	福祉型障害児居宅介護等	訪問介護	日中一時支援	移動支援	相談支援	センター登録者		就業・生活支援
地域総合支援センター							8	24	20	55				82	7	60	13	297	348	914	
大分県源泉寮	124			0			6		18	38									57		243
大分県のぞみ園		84	93	30										10		12	6	141			376
大分県糸口学園		61	61	12							26	79	35			20		115			409
大分県糸口厚生園		62	63	24												10					159
大分県糸口第二厚生園		62	67	13												12					154
大分県糸口通勤寮				7	24	31				14											76
大分県なおみ園		62	55	24						11	6		30		23	3	20	4	111	126	475
大分県日田はぎの園		83	85	33												25					226
地域生活支援センターはぎの										24	3	27		26			16	292	292		680
計	124	414	424	143	24	31	14	24	49	137	29	136	35	141	10	159	39	1013	766		3712

(注) 1人の利用者が2以上のサービスを利用している場合は、重複して計上

今号表紙には、共に歩んでくれる新しい仲間を紹介しています。これからの事業団を背負って頑張ってほしいと思います。

さあ、これからは実践です。前に進めばまた多くの課題も見えてくるでしょうが、新しい発想や修正をしていくことで乗り越えていけると思っています。

このたびは、前年度に様々な委員会やプロジェクトで多岐にわたる報告と議論を交わしていただき、大変にページ数を増やして発行しました。各委員やプロジェクトメンバーも多岐にわたる資料を作り、より良いものを生み出していただくという議論を交わしていただきました。現在、PDCAサイクルのP（プラン・計画）が終わったばかりなので、これからが本番です。これからD（ドゥ・実行）C（チェック・検証）A（アクト・改善）を繰り返すことで発展していくことと思います。

今回は、前年度に様々な委員会やプロジェクトで多岐にわたる報告と議論を交わしていただき、大変にページ数を増やして発行しました。各委員やプロジェクトメンバーも多岐にわたる資料を作り、より良いものを生み出していただくという議論を交わしていただきました。現在、PDCAサイクルのP（プラン・計画）が終わったばかりなので、これからが本番です。これからD（ドゥ・実行）C（チェック・検証）A（アクト・改善）を繰り返すことで発展していくことと思います。

